

〈隷書〉

對酒燭
出簾香
分花底
散竹間
風起

山本飛雲先生書

(この課題で書体は自由。但し、この課目は一人一点のみとする)

半折作品は各課目ごとに横／＼に一枚ずつたたんで提出ください。

〈楷書〉

對酒燭
出簾香
分花底
散竹間
風

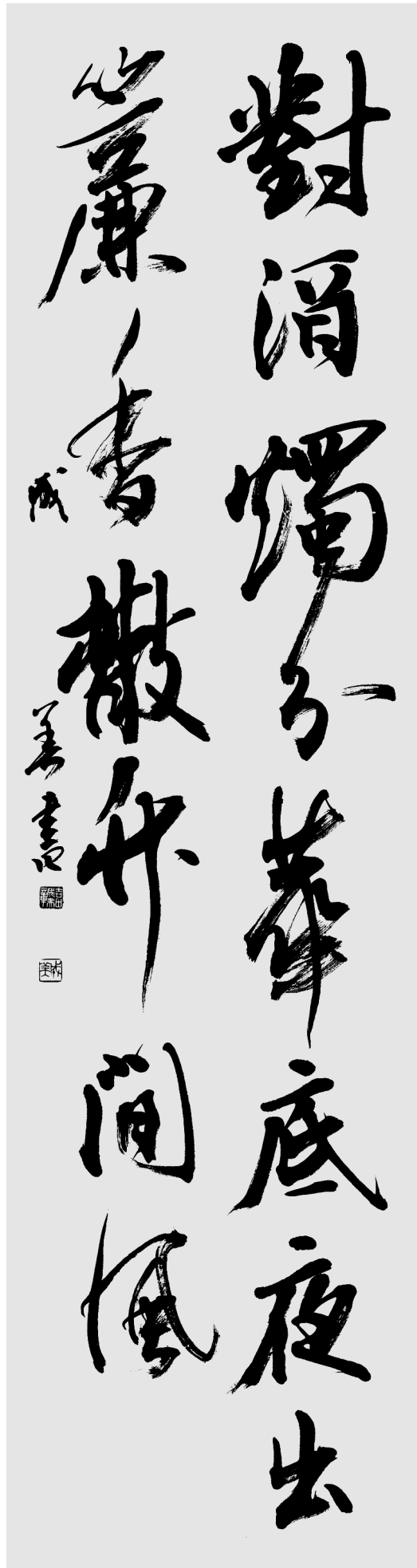
小畠秋聲先生書

□ 酒に對して燭は分る花底の夜
簾を出で香は散ず竹間の風 (華幼武)

次号予告「詩有靜功聯句好 坐無俗客話情深」

〈行書〉

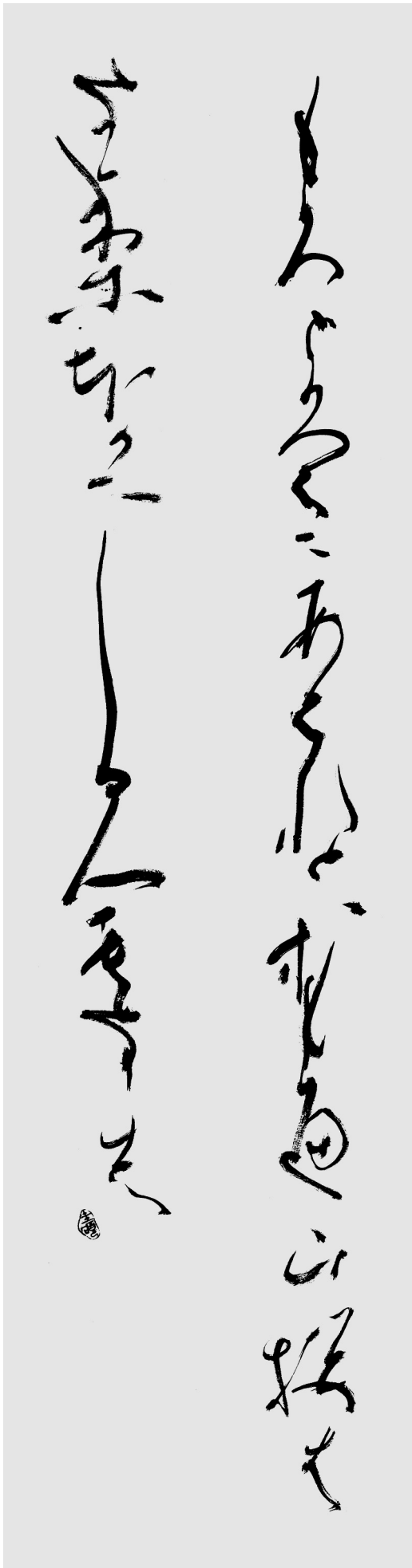
吉田成美先生書



▽花下で酒飲むときは一灯を数人で擁して影を分つ、竹間の風が香を散ずるのは簾が出る時である。

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

舟尾圭碩先生書



□ もろと裳^{もに}二 あ者^はれとおも^へ遍 山桜 者^はなよ梨^り本^ほ可^か二 しる人^しもな志
もろともに あはれと思へ 山桜 花よりほかに しる人もなし

〈百人一首六十六〉

条幅随意（臨書）（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点のみとする）

清原大龍先生臨

并給東園秘器賻贈
二千段喪葬所須並

▽ 温彦博碑

并給東園秘器賻贈二千段喪葬所須並

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

吉田成堂先生書

赤茶けた遠い丘の向ふに
陽炎にゆられてゐる
毀れた宮殿の円柱

□ 「炎える地上」

坂本越郎の詩

赤茶けた遠い丘の向ふに

陽炎にゆられてゐる

毀れた宮殿の円柱

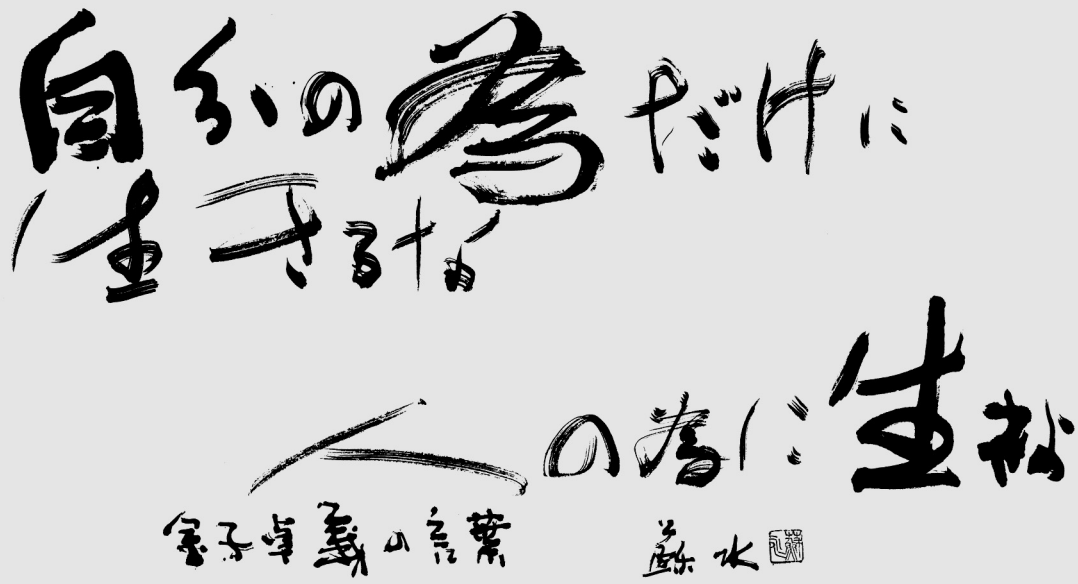
《手本（課題例）にとられず意欲的な作品を期待します。》

半折作品は各課目ごとに横／＼に一枚ずつたんで提出ください。

条幅 随意参考手本（半折 $\frac{1}{2}$ 横のみ） — 8月末日締切 —

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

《手本（課題例）にとらわれず意欲的な作品を期待します。》



廣瀬蘇水先生

□ 金子卓義の言葉

自分の為だけに
に生きるな
人の為に
生きよ

ご子息に贈ったことば。温かく、優しく、そして厳しく。可読性のある線の変化、細太、落筆の高さ、墨の入れ方、横への流れなどを意識して書く。



井之上南岳先生

□ 「忘我」
（ぼうが）

われを忘れる。

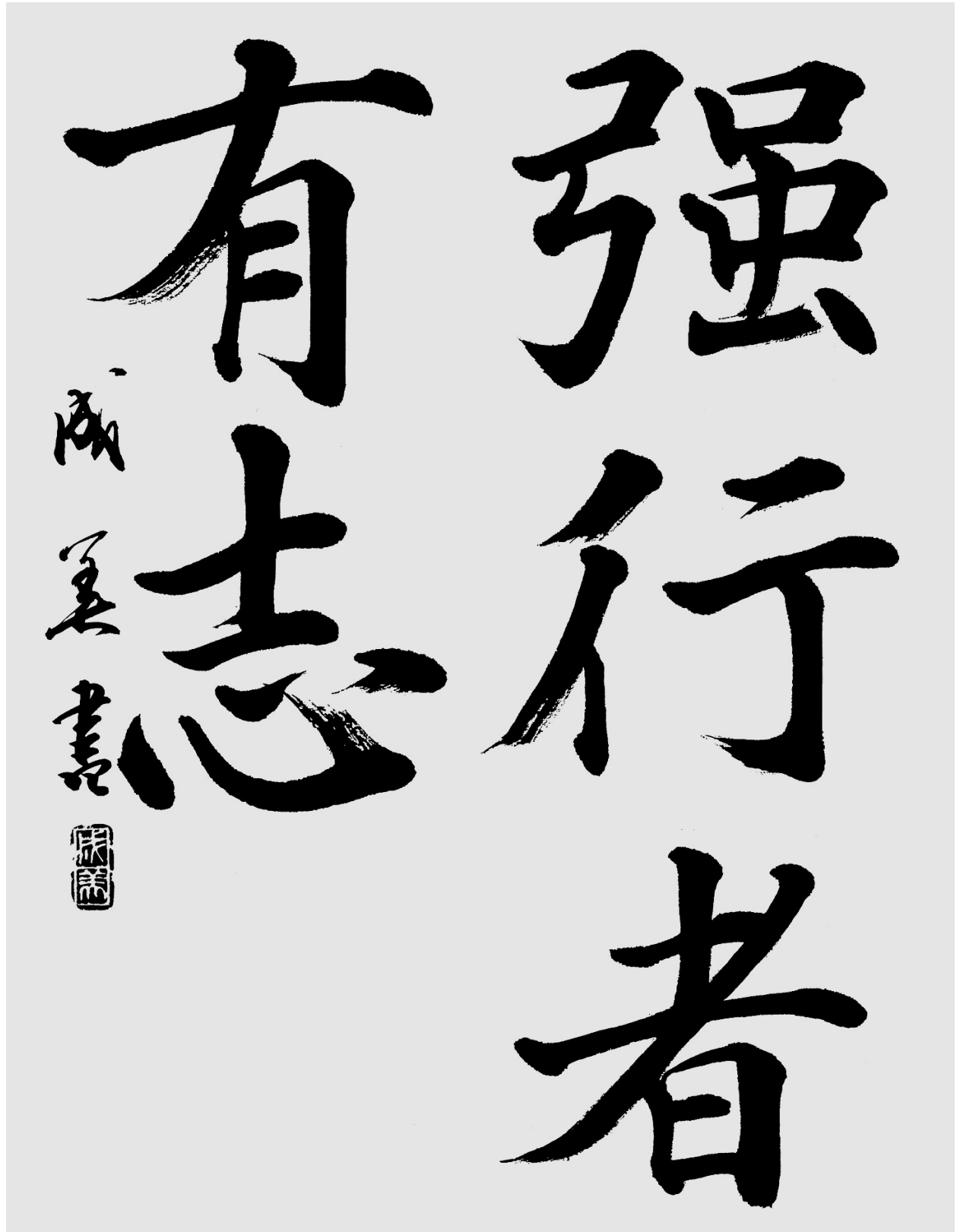
「書」もわれを忘れて率意の書を書きたいと思っていま
すが、残念ながら
がらいつも作
意に負けてし
まいます。

※半折 $\frac{1}{2}$ 横

の出品票
は作品の
左下に貼
って提出
下さい。

(この課題で書体は自由。但、この課目は一人一点とする)

□ 強めて行く者は志有り(老子)
道に努める者が志ある者である。



次号予告「黄葉前朝寺」

吉田成美先生書

(この課題で書体は自由。但、この課目は一人一点とする)

□ 強めて行く者は志有り（老子）
道に努める者が志ある者である。



次号予告「黄葉前朝寺」

吉田成美先生書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

□ 英氣動人 英氣は人を動かす (旧唐書)
優れた勇気が人を動かす。



次号予告「望月方娥」

渡 邊 大 嶽 先 生 書

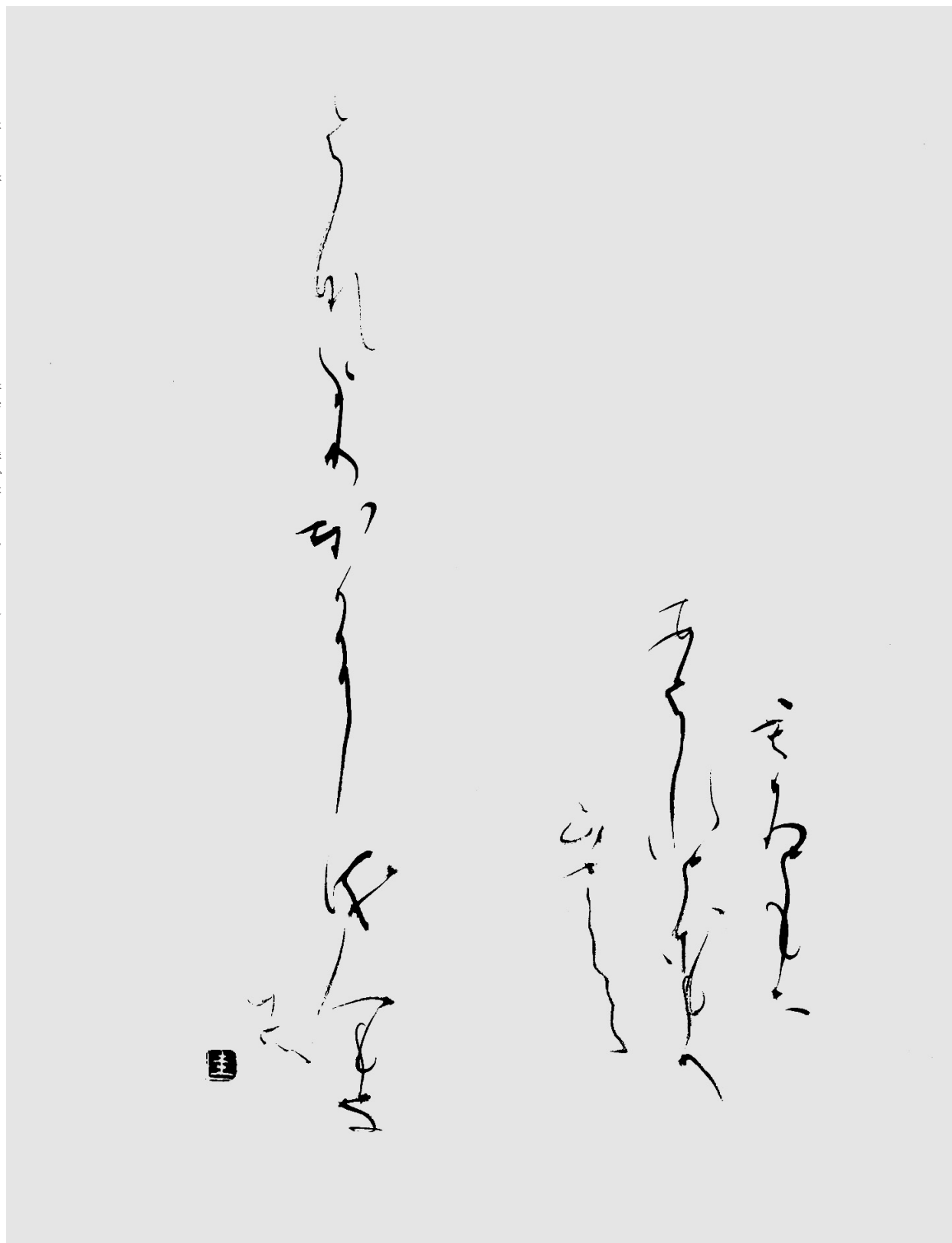
半紙随意参考手本 — 8月末日締切 —

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△仮名▽

もろともに あはれと思へ 山桜 花よりほかに しる人もなし

□ もろとも二に あ者れとおもへ 山さくら 者那より本可尔 し流人もなし



舟尾圭碩先生書

半紙随意参考手本 — 8月末日締切 —

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△詩文書▽

谷迪子の句 六甲に 雲ひとひらや 秋隣

※出品券は、半紙をタテにした左下に貼って提出ください。(ヨコ作品の場合も半紙をタテにして同様に貼ってください)



坂元紫香先生書

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点とする）

△臨書▽

縦長の字形を意識し、伸びやかな線に心掛けよう。



「侍郎盧義」

吉田成美先生臨

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△実用書▽

水嶋 村上 目黒 森脇 柳沢 山田 湯浅 吉田 龍 冷泉 渡辺 若林

姓
号

冷 泉	湯 浅	森 脇	水 嶋
渡 辺	吉 田	柳 沢	村 上
若 林	龍	山 田	目 黒

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△手紙文▽

夏は天の川が最も美しい季節です 川の兩岸でひときわ明るく輝くのは織姫星と彦星です
お盆の時期には流れ星も多く見られます 星座と合わせて楽しみましょう

亜沙子

夏は天の川が最も美しい季節です
川の兩岸でひときわ明るく輝くのは
織姫星と彦星です お盆の時期には
流れ星も多く見られます 星座と合
わせて楽しみましょう
亜沙子

大 坪 桂 子 先 生 書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目A・Bのいずれか一点のみとする)

書譜

△暮らしに役立つ書▽

以前からお話しておりました、研修
旅行のご案内です。
目的地は、広島県の熊野町、筆の里を
訪れます。工房めぐりや筆づくり体験
も予定しております。道具への感心を深め、
書活動に活かしたいものですね。
季節は紅葉の美しい頃です。楽しい
旅となりますよう、お一人でも多くのご参加
をお待ちしております。

野のある便箋に書いてみよう。

△ 26 cm × 18 cm ▽

紙質は自由。

- 小学生の女の子が、花火模様のきれいな一筆箋を手に取り、「これでおばあちゃんにお手紙書きたい!」とご両親のもとへ走って行きました。とてもほほえましい光景でした。季節に合わせた一筆箋や便箋がお手紙を書くきっかけになればいいですね。

※ 本研究社にて「特選便箋」を発売しております。本誌裏面をご参照の上、ご利用ください。

兵 頭 白 慧 先 生 書

(この課題以外の語句のものもよい。但し、その学年にふさわしい語句が望ましい。)

風の道

小学 4 年

茶つみ

小学 3 年

むぎのほ

小学 2 年

こめ

ようねん・小学 1 年

人権尊重

中学 2・3 年

人間の尊厳

中学 1 年

天然肥料

小学 6 年

秋の夜長

小学 5 年

坂元紫香先生書

△条幅 1/4 四尺画仙紙半折 1/4 : 68 cm × 17・5 cm ▽

□ 筆をはこぶ時は、鋒先はなきの方向に気をつけて、腕全体で伸びやかに書きましょう。



小学二年

次号予告「ゆうやけ」

□ 書きはじめは、筆の先をきれいにととのえましょう。〃ハネ〃トメ〃ハライ〃はていねいに。



ようねん・小学一年

次号予告「ペ ン」

坂 元 紫 香 先 生 書

□ 「風」道の「部首」とのバランスや、大きさに注意し、元気のある作品に心がけよう。



小学四年

次号予告「はすの実」

□ 「茶」は「冠」と下部のバランスに注意し、ひらがなは懐ふところを広く、伸びやかに書こう。



小学三年

次号予告「光」

吉 田 成 美 先 生 書

□「天」は横画の長短に注意し、他の三文字は「へん・つくり」のバランス、点の位置もよく見て。

天 肥 然 料

小学 六年

次号予告「秋 風」

□「秋」と「夜」の「払い」の位置に気をつけて。「長」は長い横画でほぼ二等分できるように。

秋 夜 の 長

小学 五年

次号予告「よもぎ葉」

秋 永 春 霞 先 生 書

□墨をしっかりとつけ、リズムに乗って行書の筆意を意識して伸びやかに書こう。

人 尊 重 権

中学二・三年

次号予告「芸 術」(行書)

□筆の穂先を使って、線の強弱、画数の変化に注意し、明るさのある作品に心がけよう。

人 間 の 尊 厳

中学 一年

次号予告「流 星」(行書)

吉 田 成 美 先 生 書

小学二年

一 口 田 用 思 ①はねる ②つける ③おも	段 級	を	ら	思	お
	氏 名	、	せ	っ	も
		書	る	た	し
		さ		も	ろ
		ま	文	の	い
		し	し	を	な
		よ	よ		と
		う。	う	知	

ようねん・小学一年

一 十 せ ①はねる ②つける ③おも	段 級	す	す	お	う
	氏 名	っ	び	ど	た
		と		り	に
		ん	こ	だ	
		と	ろ	す	あ
		ん	り	。	わ
		。	ん	お	せ
				む	て

坂元紫香先生書

小学四年

一 十 せ ①はねる ②つける ③おも	段 級	し	た	け	ち	やう	だ	い	ゆ
	氏 名	か	っ	た	。	。	。	。	。
		し	。	。	。	。	。	。	。
		。	。	。	。	。	。	。	。
		。	。	。	。	。	。	。	。
		。	。	。	。	。	。	。	。
		。	。	。	。	。	。	。	。
		。	。	。	。	。	。	。	。

小学三年

一 十 せ ①はねる ②つける ③おも	段 級	き	お	い	で	流	れ	て	い	っ	た
	氏 名	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
		。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
		。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
		。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
		。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
		。	。	。	。	。	。	。	。	。	。
		。	。	。	。	。	。	。	。	。	。

坂元紫香先生書

小 学 六 年

[illegible]

木 欄 様 様 様
⑤はねる
「はねないで」下の
よこせんにつける
可 哥 歌
⑤はねる
イ 伊 伊 伊 伊 伊
⑤はらう
⑤つき出ない

小学五年

ガンの群れは、残雪に導かれ
 て、実にすばやい動作で、ハヤ
 ブサの目をくらましながらい飛
 び去っていきます。「あっ。一羽、
 飛びおくれたのがいます。

一 つき出る
 コ 尹 君 群 群 (む)
 二 首 首 道 道 導 (みちび)
 三 飛 飛 飛 飛 飛
 残雪 (さんせつ)

小 畠 秋 聲 先 生 書

一 般 (A)

段 級	
氏 名	

戦禍の島から基地の島へ、沖縄に刻
まれた「戦争」の密度は濃い。歴史は繰
り返すところがあるという。沖縄の慰霊
の目を沖縄だけのものとせず、悲劇の
奥から聞かせる教訓に耳をすます。

(この課目はA・Bいずれか一点のみとする)

※12%拡大で原寸大になります。

中学

手紙は一日に二通来ることもあり、
一学期の別居期間にかなりの数
になった。私は輪ゴムで束ね、しば
らく保存していたのだが、いつとは
なしにどこかへいってしまった。

マ
マ
マ
通
口
口
口
号
別
行
車
車
輪
輪

①とめる
①はねる
①はねる
①はねる

小 畠 秋 聲 先 生 書